

・社会貢献

(1) 生涯学習

【目標】

本学が持つ物的、人的資源を可能な限り社会に提供することによって、地域社会との連携を深め、様々な年齢層の人々が参加できる開かれた大学となることを目標とする。

【現状報告・自己点検・評価】

1. 現状報告

1) 平成 20(2008)年度の本学主催の講座

| 主催 | 担当教員 | 講座内容 | 実施月 | 参加者数 |
|-------------------|-------|------------|----------|------|
| 太成学院大学、 美原西小学校 | 鈴木公洋 | だまし絵の体験 | 2009年3月 | 122人 |
| 太成学院大学 | 内之宮則子 | マナー講座 | 2008年8月 | 2人 |
| 太成学院大学高 等学校 | 小高恵 | 心理学入門 | 2008年7月 | 約20人 |
| 太成学院大学 | 若宮達夫 | 大学祭こども工作教室 | 2008年10月 | 29人 |

2) 平成 20(2008)年度の学外で本学教員が担当した講座

| 主催 | 担当教員 | 講座内容 | 実施月 | 参加者数 |
|---------------------|-------|----------------------|----------|-------|
| 関西大学バレーボール 連盟 | 河合信行 | 関西大学バレーボール審判 講習会 | 2009年3月 | 120人 |
| 日本バレーボール協 会 | 河合信行 | JVA A級公認審判講習会 | 2008年8月 | 69人 |
| 園田女子大学 | 黒川正剛 | 西欧近世における怪異 | 2009年2月 | 40人 |
| 三田市史編纂室 | 李東彦 | 明治期三田の特産物 | 2008年12月 | 40人 |
| (財)日本規格協会 | 坂元保秀 | 品質管理と標準化セミナー | 2008年8月 | 54人 |
| (財)日本科学技術 連盟 | 坂元保秀 | 品質管理セミナー | 2008年11月 | 45人 |
| (財)関西ニュービ ジネス協議会 | 釣島平三郎 | これからのグローバル経営 | 2008年9月 | 約100人 |
| 神戸商工会議所 | 釣島平三郎 | 経営ニューグローバルスタ ンダード | 2008年10月 | 約120人 |
| 両荘ことぶき会 | 小石真子 | 健康講座 | 2008年8月 | 90人 |

本学及び学外で各教員が生涯学習に関する講師を勤めており、公的な団体を含めて

繋がりがあることには一定の評価ができる。

【課題】

学内及び学内における生涯学習に関して各教員の関わりがやや弱い感じがいなめない、特に本学主催の生涯学習の講座を今後充実してゆく必要がある。

(2) 産学共同研究

【目標】

本学は地域に密着大学を目指しており、その一環として本学学生が何らかの形で地域に係わり地元と手を携えて産学連携事業を行うことで地元貢献したいと考えている。

そのために、本学の産学連携の推進について大阪府商工会連合会や南河内中小企業支援センターと提携しその指導・援助のもとに地元南河内の企業に橋渡ししていただき、本学・商工会・地元企業と提携し、事業を行うことで産学連携としての一定の成果を上げることが目標としたい。

【現状報告・自己点検・評価】

1. 現状報告

1) 平成 20(2008)年 4 月 12 日

大阪南河内地域中小企業支援センター、地域活性化コーディネーターの谷口清志氏より

「太成学院大学の地域貢献に係る試案 大学の特性と地域との連携ポイント」の表題の提案を受ける。これは平成 20(2008)年 2 月 22 日の大阪府商工会連合会と南河内地域中小企業支援センターと本学とのミーティングの時に依頼したレポートである。レポートの内容は 学術機関としての能力から、専門分野に応じた教育機関の提供、学生の教育の一環としての地域とのかかわり、となっている。

2) 平成 20(2008)年 5 月 20 日

近畿経済産業局のホームページに経済産業省が始めた「地域力連携拠点」事業の連携拠点に大阪府商工会連合会が採択されたことが紹介されたが、本学が大阪府商工会連合会のパートナー機関として紹介された。

3) 平成 20(2008)年 6 月 13 日

大阪府商工会、富田林商工会、大阪南河内地域中小企業支援センターと本学とで富田林商工会で本学の産学連携事業の進めかたにつきミーティングをもった。そのときに、「産業・観光 特論」の授業や「インターンシップ」などについて話あった。

4) 平成 20(2008)年 10 月 23 日

学内で関係者(事務局長、教務課長、資格・就職支援センター長など)が集まり

「産学連携の経過報告並びに今後の講義の進め方」について会議をもった。

5) 平成 21(2009)年 1 月 26 日

富田林商工会にて大阪府商工会連合会及び大阪南河内地域中小企業支援センターとミーティングをもち「産業・観光特論」の授業への協力企業を確認した。同時に協力企業の一つである佐野車両(株)の佐野社長ともミーティングを持った。その後協力企業の日本フッソ工業を訪問した。

6) 平成 21(2009)年 1 月 29 日

協力企業のカタシモワインフードを大阪府商工会連合会と大阪南河内地域中小企業支援センターの担当者と訪問した、社長と授業の進め方などを打ち合わせした。

2. 自己点検・評価

以上の経過で平成 21(2009)年度「産業・観光特論」の授業に関して、産(大阪府商工会連合会、各種の南河内の支援企業) 官(経済産業省、大阪府) 学(本学)との連携を図り、関係行政機関や各企業の支援を受けて平成 21(2009)年度よりスタートできるよう準備できたことは一定の評価はできる。

【課題】

「産業・観光特論」のプログラムはなんとか 4 月よりスタートできるように準備できたが、プログラムの内容も反省点を踏まえて今後改良を加えていかなければならない。

またそれ以外のプログラムについてはあまり大きな進展がなかったことは課題である。